

りも大きな華であってみれば……。黄色い学童傘が光を透く花柄の傘にかわった頃には、私は傘をか
つがずにさせるようになっていただろうか。この少女のように……。いみじくも春信が浮世絵の片隅
に開きかけてくれた傘は、春信ねらう少女美の世界をのぞかせながら、そんな傘との結ばれを雨音の
中にしのび聴くことを誘いかけてくる。

(お茶の水女子大学)

。。。。
雨・子ども。。。。

雨の日の保育

長山 篤子

雨の日は、大人にとって何となく気の沈みがちな日となります。子どもたちに出会っても、お天気の日のように積極的にならぬ外に出て行こうとする気持ちになれません。それは、大人にとっての雨は、自分の行動を制限してしまう一つの壁となってしまうからでしょう。自らの行動を、固定概念の下に制約してしまいます。

しかし、本来子どもたちの心は、大人のような固定概念に制約されるものではありません。雨の日も彼らにとっては、積極的な一日となります。

六月の雨の続いたある日、保育の中で次のような体験をしました。

四才のN君は、外遊びの大好きな子どもでした。砂場での穴掘り、園庭での河川工事は、誰よりも得意でした。園庭に長い川を掘り、ミキサー車に見立てたタイヤの中で、泥をよく捏ね、兩岸を築き上げていく様子は、私をよく感動させてくれました。(N君は、今春、工業高校に入学したと喜びの便りをくれました。その当時の興味がそのまま持続されていることに驚いています。) こんなN君でしたので、雨の日が続き室内活動だけに行動が限定されてしまいますと、気持ちが収まりません。「室内では、こんな事が出来るのよ」とN君に大工道具を出してすすめたり、粘土活動を取り入れたりしましたが、なかなか活動に打ち込むことが出来ませんでした。満足出来ない気持が、友達とのトラブルに繋がり、N君にとって楽しいはずの一日が、つまらない日になっていきました。私の中には、雨の日は、「室内活動で満足させるような工夫を」と云う固定概念がありました。N君のふと漏らしたことばに、ハッとさせられました。「雨の日でも外に行きたい。たくさん遊ぶことがある」私は、

「そうだったのか」とN君の気持ちを知りました。「雨の日は、外では何も出来ない」これは私の体験でした。N君は、雨の日も外で体験出来る沢山のことを知っていました。（絵本では、「まこちゃんのおたんじょうび」にしまきかやこ・こぐま社。「きいろいかき」同。「おじさんのかさ」さのようこ・ぎんがしゃ等 子どもと雨の日の出会いが楽しく描かれている）

それから、私は、N君の友達二人と一緒に傘をさして、長靴をはき園庭に出ました。水溜りに皆で顔を映し長靴でパシャンと壊す遊びから始まり、でんでん虫探しにその日は午前中を夢中で過ごしました。N君は、その日の帰りは、活き活きとした表情で満足して帰途につききました。次の日、N君は又、雨の中、外に出ることを望みました。その日は、五名の男女児と共に雨具をつけると近くの神社まで散歩に出かけることにしました。車の少ない道をゆっくり歩いていきました。途中、蛙に出会い、のろのろと道を渡る様子を最後まで見届け、みんなでホッと溜息をつきました。神社では、幼稚園では見られなかったでんでん虫があまり沢山いて驚きました。神社の階段でジャンケンをして遊びました。片手に傘を持って、ゆっくりあちこちを歩きまわり、新しい発見をすることが、こんなに面白いことであったのかと、あらためて思われた一日でした。絵本の世界で見てきた子どもと雨の日の出合いを、子どもと共に実際に体験したのは初めてでした。

雨の日は、大人の気持を消極的にしてしまいます。しかし、子どもたちは、雨の中でも出来る沢山の活動を知っていました。雨の日でなければみられない自然の動きがあることを知っていたのです。そのことを体験して以来、私は雨の日の保育は、必ず室内にあると限定することは止めました。

最近、私は、重い知恵おくれの施設をつくられた福井達雨先生の講演をうかがう機会を得ました。その折、同学園でつくられた「よい天気ありがとう」という本を紹介されました。その一頁に、同園の保母をしていらっしやる北別府理絵子さんの体験が記されていました。それは、大雨が降っている七月の半ば、園児のユリ子さんが、次のようなお祈りをしたと記しています。

「きょうは、とてもよいてんきありがとう。かわもさかなもよろこんでいます。たんぼもはたけもよろこんでいます。やまもびわこもよろこんでいます。とうきょうのひともわたしもよろこんでいます。かみさまほんとうにありがとう。」

大雨のとき「とてもよいてんきありがとう。」と心から祈ることが出来ない私は、ユリ子さんは何とすばらしい心を持っているのだらうと感動しました。そしてこうした心の動きが、あの雨の日のN君の心にあったことを思い出し、固くなってしまいがちな私の心を、打ち砕いてくれたN君に、心から感謝しました。

雨の日、子どもにとって「よいてんきありがとう」と言える体験を、保育者も共にしていきたいものです。

(女子聖学院短期大学)